

河川の大規模氾濫への備え

～水害・土砂災害に備えましょう～

令和元年6月17日
交通基盤部 河川砂防局



1

①防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策



【ハード対策】 水害・土砂災害から命を守るインフラの強化

※交付金による
実施箇所数

○樹木繁茂や土砂堆積による流下阻害箇所において、樹木伐採、掘削を実施 【51河川】 ※



巴川水系塩田川

右のイメージの
ように整備を進
めます



○越水による決壊までの時間を引き延ばす堤防天端舗装等を実施 【7河川】 ※

太田川、馬込川等について整備

堤防天端舗装の
イメージ



※効果のPR、事前防災の重要性を中部地方治水大会（10月23日）で発信

2

②危機管理型水位計の運用開始



危機管理型水位計の導入

◎危機管理型水位計

6月1日時点で**101箇所設置済**

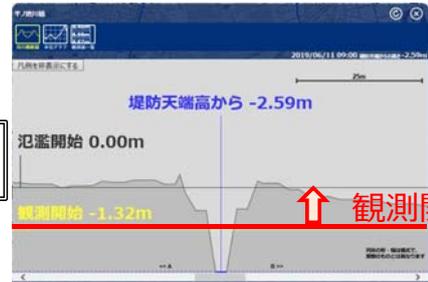
全国共通の閲覧サイトで
情報提供
<https://k.river.go.jp/>



導入コストが
従来の水位計に比べて
1/20

河川横断面図に
よる表示例

水位グラフに
よる表示例



観測開始 ↑



観測開始 ↑

今夏中に
サイポスレーダー
でも
閲覧を可能とします



サイポスレーダー

3

③洪水浸水想定区域の見直し

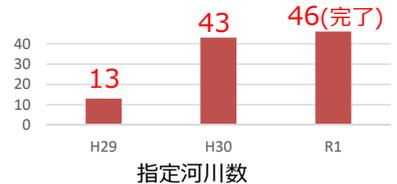


- **1,000年に1度を上回る想定し得る最大規模の降雨で見直し**(従来は河川の計画規模)
- 堤防決壊による浸水の範囲や深さ、継続時間を公表
- 堤防決壊や河岸浸食による木造家屋の流失などの危険区域を公表

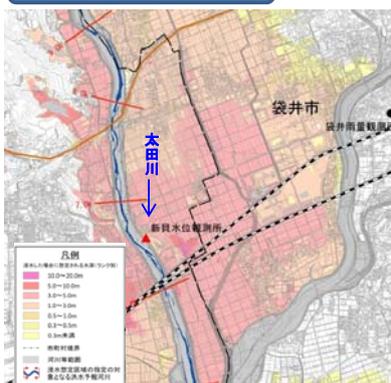


・対象河川：**46河川**
⇒**本年5月までに全て見直し・公表**

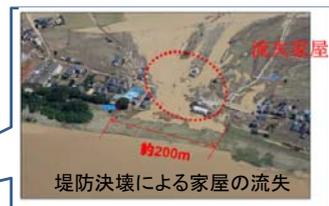
洪水浸水想定区域の指定状況



浸水想定区域図



家屋倒壊等氾濫想定区域図



4

④大規模氾濫減災協議会の拡充・強化



「水防災意識社会」の再構築を図るため、「大規模氾濫減災協議会」を8地域で設立

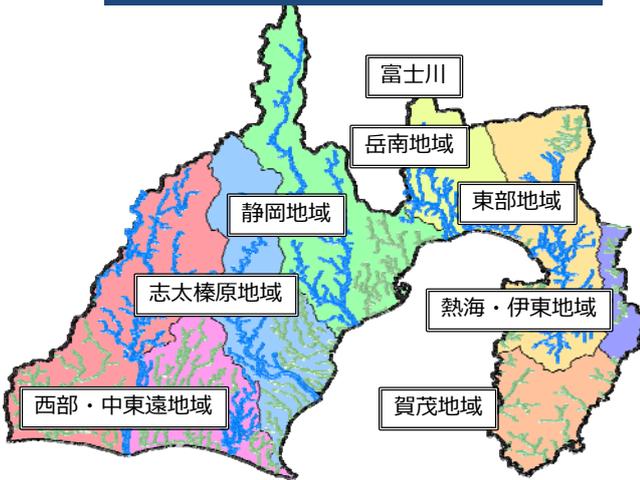
【取組方針】

- 1 逃げ遅れによる人的被害をなくすこと
- 2 氾濫発生後の社会機能を早期に回復すること

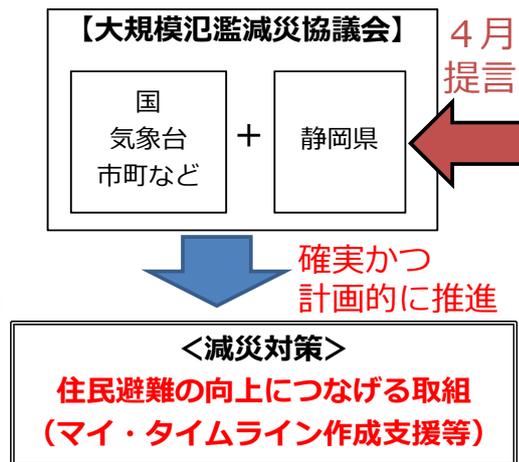
令和元年度の取組

- ①「住民避難実効性向上検討委員会」からの提言を確実かつ計画的に推進
- ②県・市町の高齢者福祉部局を追加し、高齢者の避難行動の理解促進に向けた取組
- ③土砂災害への防災体制等と連携、情報共有を実施

<静岡県内の協議会設立状況>



<静岡県の取組体制>

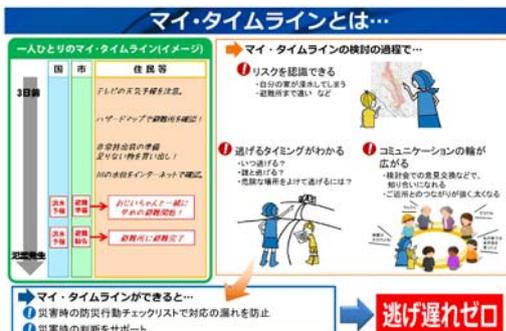


⑤洪水ハザードマップ、マイ・タイムラインの支援



- 県OB職員等の協力のもと、説明会や研修会等の開催を通じた、市町に対する洪水ハザードマップやマイ・タイムラインの作成支援***
(洪水ハザードマップ作成率20% 6市町/30市町)
- 藤枝市をモデルに、マイ・タイムラインの手引きを作成 (危機管理部)

*市町支援の方法を試行中
(袋井市等において、県も協力の上、国交省が検討中)



マイ・タイムライン作成のイメージ



マイ・タイムライン研修会の様子
(令和元年5月31日開催)



避難勧告等に関するガイドライン改定
【令和元年5月末に運用開始】

地域一体となった水防訓練

※今年度は11回開催

- ・消防団、自主防災組織等の合同による各種土のう工法の訓練
- ・県土木事務所等の新規採用職員も参加した訓練の実施



～～洪水から守ろうみんなの地域～～

水防の重要性の普及

- ・河川管理施設等の合同巡視、点検活動
- ・水防の重要性についての普及啓発活動



土砂災害防止の取組

◎幅広い年齢層への講習会



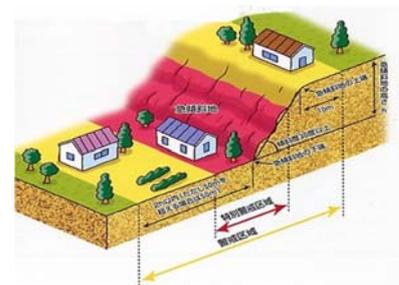
出前講座（ヒーローショー）

◎土砂災害全国防災避難



要配慮者による訓練

◎土砂災害警戒区域の指定完了



出前講座（砂防堰堤建設現場見学）



土砂災害防止講習会

	2018年度 まで	2019年度
指定 箇所数	16,779 箇所	18,581 箇所
指定率	90%	100%

土砂災害に対し「日頃の備え」と「早めの避難」を呼びかけます。